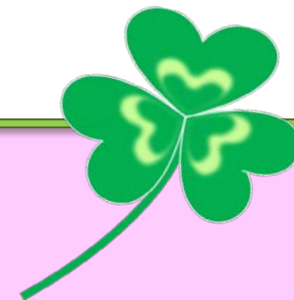




「知的障がい特別支援学校高等部（職業学科）における
自己指導能力を育てる指導の在り方」



平成29年1月11日（水）16：20～17：00
北海道立特別支援教育センター
自閉症・情緒障がい教育室 三 瓶 聡



本日の内容

- 1 本研究の背景と目的
- 2 高等支援学校における在籍生徒の状況
- 3 高等支援学校に在籍する生徒に対する自己指導能力の育成
- 4 本道における生徒指導上の現状と課題
- 5 生徒の自己指導能力育成に向けた指導の充実
- 6 まとめ



1 研究の背景



研究の背景と目的

- 高等支援学校への進学を希望する生徒の増加
- 生徒を取り巻く社会・家庭環境や障がいの状態の多様化により、生徒指導上の行動問題が複雑化
- 卒業後に変化の激しい社会の中で自立した生活を過ごしていくために、状況に応じて主体的に行動する力を身に付ける必要性



生徒指導の充実が求められている

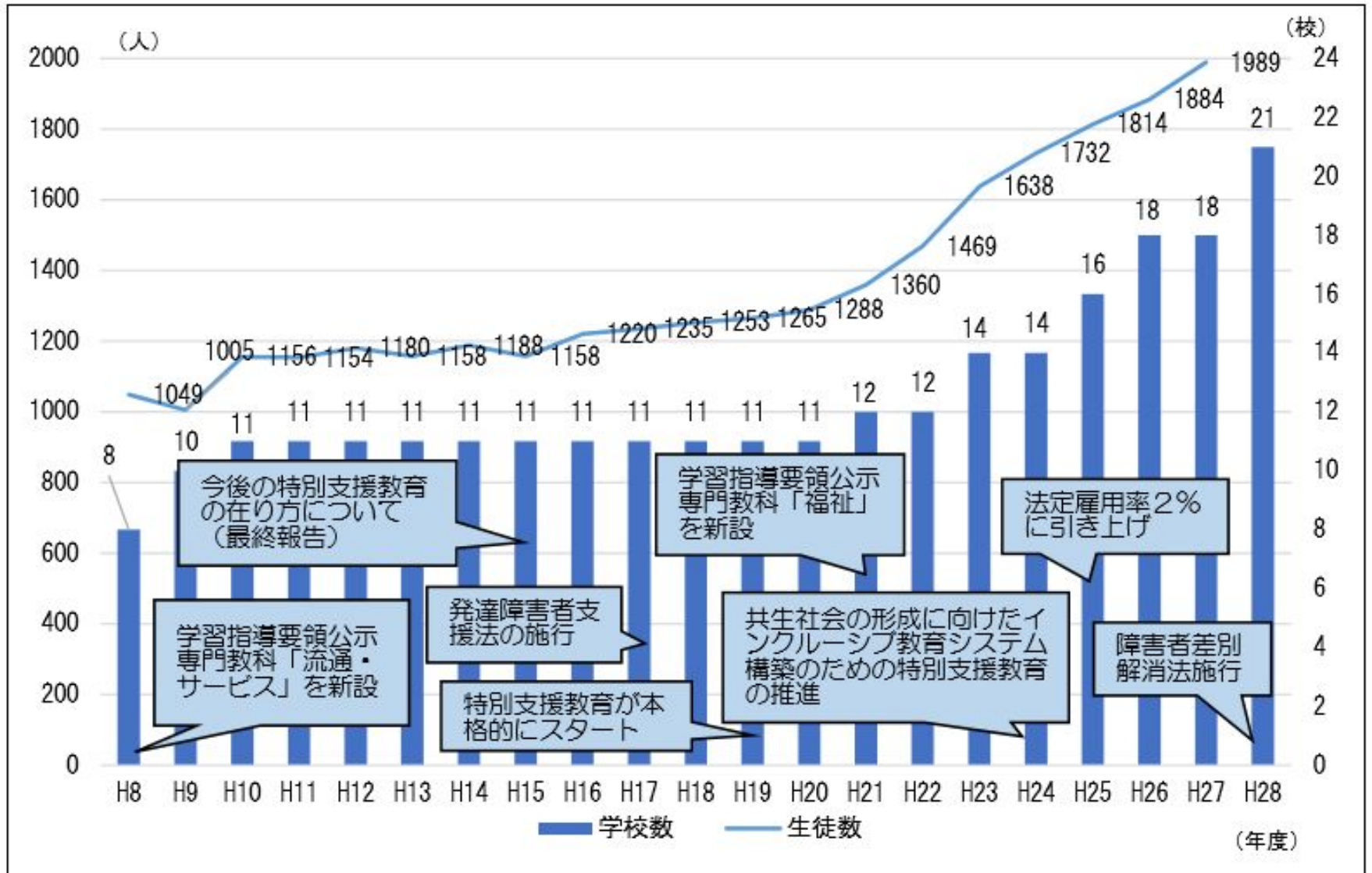


学校教育活動全体を通じて生徒指導を充実させるための指導のポイントを明らかにすることを研究の目的とした

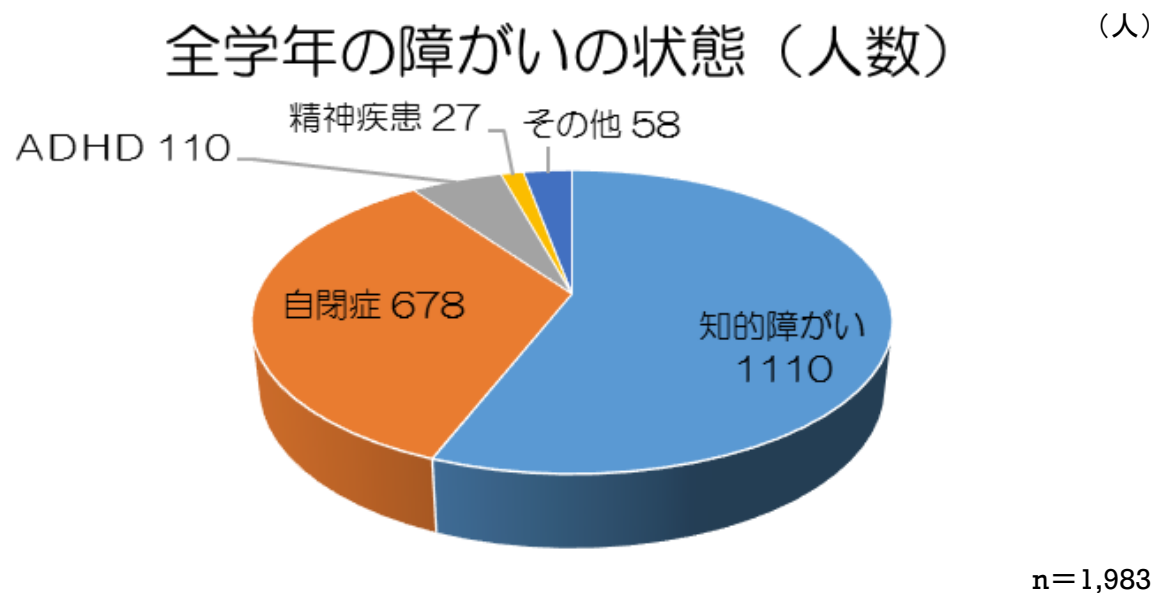
2 高等支援学校における在籍生徒の状況



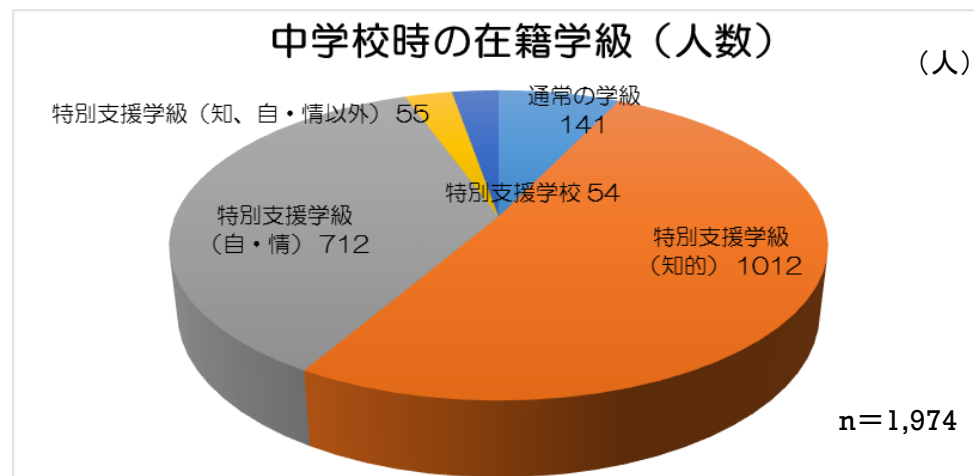
高等支援学校の学校数と在籍生徒の推移



高等支援学校における生徒の障がいの状況



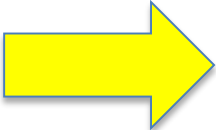
平成27年度「研究紀要」 p19



平成27年度「研究紀要」 p20

高等支援学校における生徒指導上の課題

- ・ 本道の高等支援学校に在籍する生徒は、ほとんどが療育手帳を持っているものの、その知的障がいの程度は軽度化していること。
- ・ 生活不適応に該当する記述では、中学校時代の不登校経験やいじめられ体験、対人関係のトラブル、集団不適応等に言及する内容があったこと。
- ・ 学校不適応状態に陥り、かなり傷ついた状態で高等養護学校に入学してきている生徒が一定程度いること。
- ・ 知的障害がより軽度の生徒が学校適応に苦慮している割合が高いこと。



知的障害は顕著ではないが行動面での様々な困難さを抱えた生徒が高等養護学校に進学している

生徒指導とは

「生徒指導は、学校の教育目標を達成するために重要な機能の一つであり、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、倫理観や正義感などの社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである」

引用文献：文部科学省，(2009.12)，「特別支援学校学習指導要領解説総則等編（高等部）」p124

生徒指導の意義とは

「生徒自ら現在及び将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である」

引用文献：文部科学省，(2010.3)，「生徒指導提要」p1

本研究の目的

本道の高等支援学校における、生徒指導を充実させるための具体的な方策を明らかにする。

研究の内容

- ・ 高等支援学校における自己指導能力の育成に関わる3つの留意点について、具体的な指導内容を質的に分析、整理する。
- ・ 分析結果を基に、今後、生徒指導に求められる内容について考察する。

研究方法

- ・ 文献研究
- ・ 調査研究



3 高等支援学校に在籍する生徒に対する自己 指導能力の育成



本研究における自己指導能力とは

「生徒自らが考え、判断し進んで行動ができるようになること」



一人一人の発達の段階や障がいの状態等を考慮し、どの生徒にも共通する能力が形成されるような計画的な生徒指導が求められており、「学習活動の場を含む、学校生活のあらゆる場や機会」において指導が行われることが必要である。



自己指導能力を育成するための3つの留意点

- ① 児童生徒に自己存在感を与えること
- ② 共感的な人間関係を育成すること
- ③ 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること

引用文献：文部科学省，（2010.3），「生徒指導提要」 p5



知的障がいのある生徒の学習上の特性等

知的障がいの特徴

一般に、認知や言語などにかかわる知的能力や、他人との意思の交換、日常生活や社会生活、安全、仕事、余暇活動などについての適応能力が同年代の生徒に求められるほどまでに至っておらず、特別な配慮が必要な状態とされる。ただし、その状態は、環境的・社会的条件で変わり得る可能性がある。

学習上の特性等

- ・ 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく実際の場で応用されにくい。
- ・ 成功経験が少なく主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていない。
- ・ 実際的な生活経験が不足しがちであることから、実際的・具体的な内容の指導が必要である。

知的障がいのある生徒の学習上の特性等

学習する上で配慮が必要な事項

- ・生活に結び付いた具体的な活動を学習の中心に据え、実際的な状況下で指導する。
- ・生徒の興味・関心や得意な面を考慮し、教材・教具等を工夫するとともに、目的が達成されやすいように、段階的な指導を行うなどして、生徒の学習活動への意欲が育つよう指導する。
- ・生徒一人一人が集団において役割が得られるように工夫し、その活動を遂行できるよう指導する。
- ・生徒一人一人の発達の不均衡な面や情緒の不安定さなどの課題に応じて指導を徹底する。



自己指導能力の育成を目指すための、教育活動における3つの留意点

- ① 児童生徒に自己存在感を与えること
- ② 共感的な人間関係を育成すること
- ③ 自己決定の場を与え自己の可能性の開発を援助すること



知的障がいの特徴、学習上の特性等



高等支援学校に在籍する生徒に対する指導上の配慮事項

自己指導能力を育成するための3つの留意点

自己存在感

「他者とのかかわりの中で生きている人が、そのかかわりの中で自己の存在を見い出せる」こと。

他者とのかかわりの中で、自分が相手に受け入れられている、他者から認められていると感じることによって得られるもの。

指導に当たって

- ・ 個々の状況に応じた役割や活躍場面を設定
- ・ 主体的に取り組むことができるよう、見通しがもちやすい環境を設定
- ・ 適切な生徒理解に基づく、一人一人に応じた分かりやすく理解しやすい言葉や方法で評価

自己指導能力を育成するための3つの留意点

共感的人間関係

「相互に人間として無条件で尊重し合う態度で、ありのままの自分を語り、理解し合う人間関係」のこと。
他者と関わり、やり取りを重ねる中で、自己を受容し、多様な価値観が存在することを認識する中で育つもの。

指導に当たって

- ・ 状況に応じた適切な表現の方法を指導
- ・ 他者と関わり合いをもてるグループを編成したりしながら、意図的に場面を設定

自己指導能力を育成するための3つの留意点

自己決定

「生徒が事前に決められたことを決められたとおりにするのではなく、自分で判断し、決定し、実行し、責任を取る」こと。

生徒が必要な情報を取捨選択し、自らの決定で実行し、責任を取ることの経験を通して身に付いていくもの。

指導に当たって

- ・ 学習のねらいや目標を明らかにして授業を展開
- ・ 生徒に自らの取組を振り返り、評価させる場面を設定



4 本道における生徒指導上の現状と課題



研究協力校における生徒指導の現状（概要）

インタビュー調査の分析結果

項目	現状
行動問題の内容	<ul style="list-style-type: none">○ SNSや携帯電話に関することや、飲酒、喫煙に関することが多かった。
行動問題の発生時期、学年の状況	<ul style="list-style-type: none">○ 1年生は学校生活に慣れてきた頃に、軽微な行動問題（服装の乱れなど）が発生することが多い。○ 現場実習を終え、自分の目標が見えてくると落ち着いてくる生徒が多い。
課題となっていること	<ul style="list-style-type: none">○ 保護者との連携が難しい。○ 携帯電話やスマートフォンの普及に伴うトラブルが増加している。○ 行動問題への対応時の学級担任の負担が増えている。○ 通学指導時のルールやマナーの徹底が難しい。○ 個に応じた対応が多く、指導プログラムの積み上げが難しい。○ 寄宿舎生の心理的安定に苦慮している。
生徒指導で主に取り組んでいる内容	<ul style="list-style-type: none">○ 生徒会執行部を主体とした生徒の自主性、積極性を育てる取組を行っている。○ 校則や社会のルールを守ることなど、規範意識について学ぶ機会を設けている。○ 身だしなみを生徒自ら整える等、生徒が気付く指導を心がけている。

3つの留意点からみた各校の取組

項目	自己存在感	共感的人間関係	自己決定
各教科等における指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ キャリア学習や総合的な学習の時間に自己理解の学習を設定 ○ 実習で製作した物を販売することによる他者評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業の時間に自己チェック、他者チェックを実施 ○ 体育や作業学習におけるグループ分けの工夫 ○ 国際理解の学習を実施 ○ 他学科実習による他者理解の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会のルールやマナーの学習 ○ 生徒同士のディスカッション ○ 現場実習についての情報を生徒に積極的に提供
教育相談	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個に応じた生徒指導 ○ 生徒指導行動連携カードの作成 ○ 生徒面談の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒に寄り添った生徒指導 ○ 友達同士の思いやりを重視した指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現場実習後の個別面談と情報の共有
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 委員会活動 		<ul style="list-style-type: none"> ○ LINE等についての学習会 ○ 生徒による学年のルールの作成
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒向けの通知表の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 同好会、部活動における他学年との関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 卒業生からの講話 ○ 他機関と連携した適切な対応



ここがポイント!

主体的な取組を促すための場面設定

他者との適切な関わりに関する指導など

目標設定やルールの設定や振り返りの工夫

3つの留意点の内容と特に関連する取組

指導上のポイント	自己存在感
ア 役割や活躍場面の設定	<ul style="list-style-type: none">・ 作業学習や企業内実習における役割を設定し、責任を果たせるようにする。・ 生徒会活動において自分の意思を表明し、役割を果たせるようにする。・ 部活動、同好会を通して、与えられた役割を果たす経験させる。
イ 主体的に取り組めるようにするための環境の設定	<ul style="list-style-type: none">・ 国語や数学において、生徒の習熟度別にグループを編成し、分かる授業づくりを行う。・ 作業学習において、グループでの活動を行う際に、友達の頑張りに刺激を受け、自らも頑張ろうと思えるような環境の設定をしている。・ 陸上記録会で目標を設定して挑戦する。・ 行動問題があった生徒に自己の行いを整理する時間を設定し、本人の良いところも自覚できるようにする。・ 「セルフマネジメント」の時間における教師との個別面談において、生活や授業の振り返りを行っている。

3つの留意点の内容と特に関連する取組

指導上のポイント	共感的人間関係
ウ 相手や場面に 応じた伝え方の指導	<ul style="list-style-type: none">・ 作業学習における他生徒の取組状況の参観を通し、気付いた事を伝え合う。・ LHRで他者に対する適切な言動や相手を尊重した行動や態度について生徒間で話し合える場を設定している。・ 生徒同士で励まし合うなど共感的な関わり促進する。・ 学校祭実行委員会において、生徒同士の意見の尊重、相互の理解、協調の場面を設定する。・ 委員会活動において、他者の意見を聞きながら、自分の意見を伝えられるような環境を設定する。・ 道徳における話し合い活動において、自他の意見を比較する活動を実施する。
エ 他者との関わり 合いをもてるグ ループ編成	<ul style="list-style-type: none">・ 意図的なグループ分けによる学習場面を設定し、他者の意見を認め、協力する場面を設定している。・ 学校祭や体育祭において、他学年の生徒が協力して取り組む場を設定し、幅広い人間関係を構築できるようにしている。・ 近隣校との交流及び共同学習において、生徒同士が相手を思いやりにつながりを感じられるようにしている。・ 地域のイベントに参加し運営の経験をさせる。

3つの留意点の内容と特に関連する取組

指導上のポイント	自己決定
オ 学習のねらいや目標を意識できるようにする	<ul style="list-style-type: none">・ 「セルフマネジメント」の時間に目標設定を行い、活動内容等を考える取組を行う。・ 作業種の選択について、面談を行い、自己決定ができる場を設定している。・ 作業学習において、グループのリーダーとして道具の準備や他の生徒の指示など責任ある行動を経験できる場面を設定する。
カ 取組の振り返りや評価ができる場面の設定を行う	<ul style="list-style-type: none">・ 教育相談を充実させ、生徒の実情にあった対応を心がけ、主体的な行動や問題解決の足掛かりとなる環境を設定している。・ 行動問題があった際に失敗の原因や適切な言動や行動について指導する場面を設け、社会のルールや常識について自ら考え学べるようにしている。

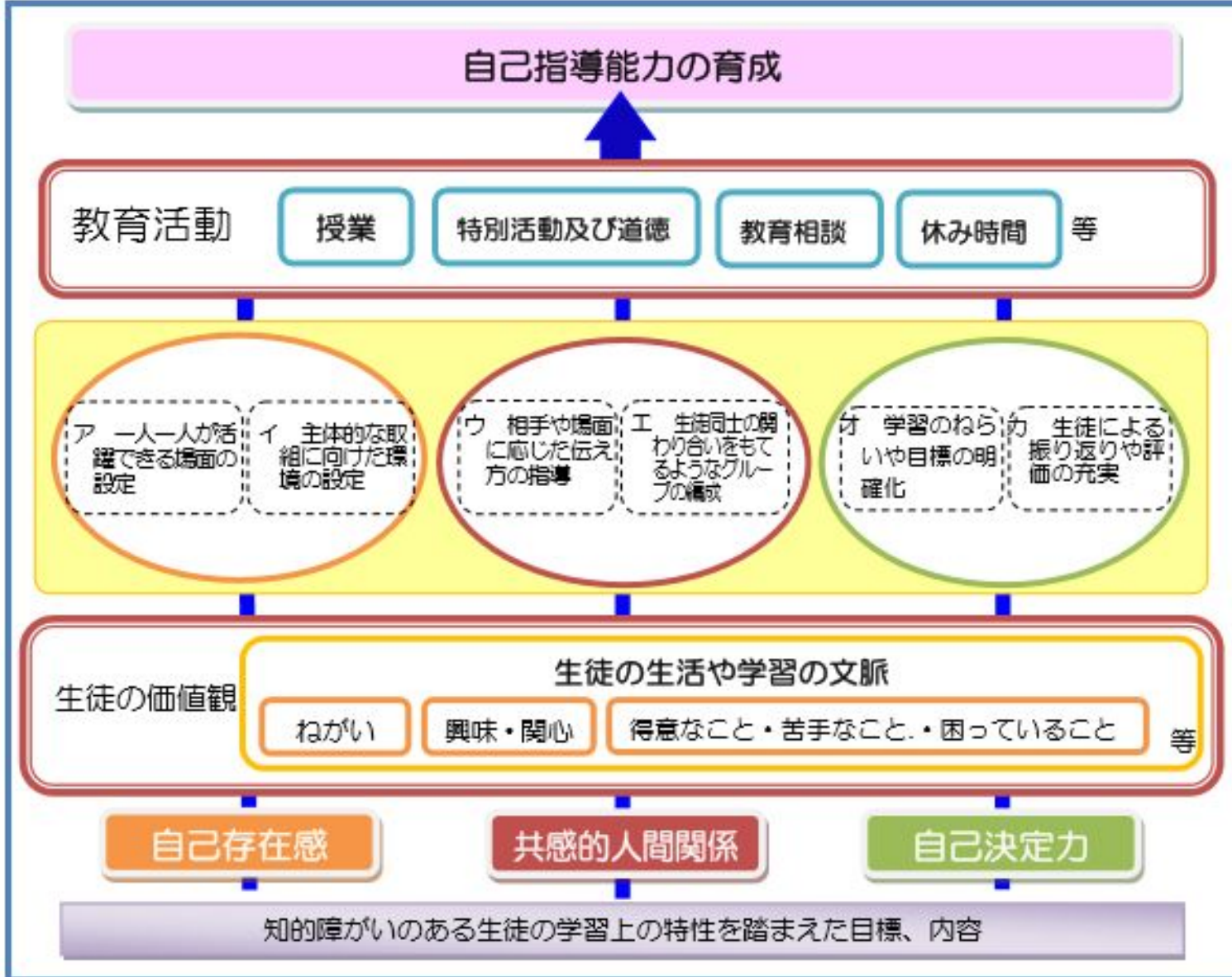


5 生徒の自己指導能力育成に向けた指導の充実





自己指導能力の育成に向けた6つの指導のポイントを踏まえた教育活動の関連図



自己存在感



ア 一人一人が活躍できる場面の工夫

- ・生徒理解を通して、生徒のよさや得意なことを発揮できる役割を与えたり、個々の役割が明確になるような小集団を編成したりするなどの指導の工夫を行う。
- ・ガイダンスの機能の充実を図り、役割の意味や物事を成し遂げることの大切さを伝える。

イ 主体的な取組に向けた環境の工夫

- ・授業毎に学習のねらいを明確にし、生徒が「分かる」、「できる」を実感する授業を展開したり、見通しがもてるような学習活動の流れ・方法・時間等について可視化したりするなどの工夫を行う。



ウ 相手や場面に応じた伝え方の指導の工夫

- ・生徒が自分の意見を述べられるようにすることや、他者の意見に耳を傾け、話の内容を理解する力が身に付く指導を行う。
- ・授業や個別の教育相談、休み時間等において、生徒と共に活動を行い、積極的に関わる場面を設定する。

エ 生徒同士の関わり合いをもてるようなグループの編成

- ・生徒が集団の中でも自分の意見を表出し、他者と関わりながら多様な価値観の存在を知ることや、教師が話し方や聞き方のモデルを示したり、発表の仕方を提示したりするなど、生徒同士のやりとりの質が高まるよう指導する。

自己決定



オ 学習のねらいや目標の明確化

- ・ねらいや達成の目安を分かりやすく伝え、見通しをもてるようにしたり、生徒の積極的な自己決定につなげるための知識や経験を幅広く身に付けさせたりするなど、主体的に学習に向き合えるような工夫を行う。

カ 生徒による振り返りや評価の充実

- ・教科学習をはじめとする授業場面において、生徒が選択、決定して取り組んだ活動について、自ら振り返りができる場面を設定したり、目標の数値化や他者評価の効果的な活用など、適切に自己評価できるよう指導したりする。

自己指導能力の育成に向けた3つの留意点に基づく 6つの指導のポイント（指導事例）

事例1（職業科）「現場実習 報告会」

自己存在感を育む指導のポイント

Aさんの状況

- 【日常生活】
 - 自分の思いや考えを言葉で表現することが苦手である。
 - 失敗することへの不安が強いため、活動に消極的な一面が見られる。
- 【現場実習】
 - 職場の方にほめられて自信がいった。
 - 同じ仕事に繰り返し取り組むことで、自分から行動することが増えた。
 - 前時では、普通の作業と実習での取組の様子を比較し、実習の成果をワークシートにまとめた。

4 観点	【本時の目標】
知識・理解	現場実習を振り返り、学校生活と実習のつながりを理解する。
思考・判断・表現	普通の作業と現場実習を比較して働くことについて考える。
技能	現場実習先で身に付けた話すときのマナー（言葉遣い、話し方、姿勢）を生かし発表することができる。
関心・意欲・態度	友達の発表を聞き、働くことへの関心をもち、意欲を高める

4 観点	【Aさんの本時の目標】
技能	発表をする際の表情や姿勢に気を付けて発表ができる。
思考・判断・表現	現場実習を振り返り、自分に合った働き方に気づく。

【授業概要】

- 現場実習で学んだこと、感じたこと、実習で得られた経験を今後の学校生活や進路選択、決定にどのように生かしていくか等の内容について、生徒個々に言語化し、振り返りを行う。

	活動内容	指導の手だて	配慮事項
展開	2 現場実習後の気持ちの変化、今後の学校生活での目標等を発表する。 3 友達の発表を聞いての感想や質問を出し合う。	6つの指導のポイントと手だてとの関連 自己存在感 ア 一人一人が活躍できる場面の設定 イ 主体的な取組に向けた環境の設定	自己存在感を育む指導の手だて 2 発表前に、鏡を見て発表時の表情や姿勢を確認するとともに、前時に作成した、ワークシートを基に、発表内容について確認を行う。 3 感想の発表に向け、友達の発表を聞くポイントなどを伝え、必要に応じてメモを取るよう支援を行う。 3 グループで話し合いをする際の質問の仕方や、相手に応じた伝え方のモデルを示す。

事例の成果

Aさんは、事後学習において、実習先や引率教員の評価から実習での取組について振り返り、良さや課題を中心に、気づいたことをまとめることができました。発表前には、ワークシートを活用して発表内容や、発表時の表情や姿勢を個別に確認することで、実習で意識していた話をする際の適切な声の大きさや姿勢に気を付けながら取り組む姿も見られました。発表の様子を写真で撮影し、振り返ることで自信をもち、他の学習場面でも意識ができるようになりました。

また、報告会において、友達の発表から自分が興味を示した仕事についてメモを取り、その仕事について自分で調べようとする等、主体的に取り組む様子がもられるようになりました。

研究紀要では、「職業科」「社会科」「道徳」「教育相談」について、3つの留意点の1つずつに焦点を当てた事例を掲載しています。



6 まとめ



まとめ

学校の教育目標を達成するために重要な機能の一つであり、学校の教育活動全体を通じて行うもの。

障がいのある生徒が、変化の激しい社会の中で自立した生活を過ごし、自己実現を図ることができるよう、生徒自らが、「考え、判断し進んで行動ができる」自己指導能力の育成を目指し、指導していくことが必要



平成27年度 北海道立特別支援教育センター 研究紀要

「知的障がい特別支援学校高等部（職業学科）における自己指導能力を育てる指導の在り方」

平成27年度 研究紀要 第29号

「知的障がい特別支援学校高等部（職業学科） における自己指導能力を育てる指導の在り方」



北海道立特別支援教育センター
Hokkaido Special Needs Education Center

事例1（職業科）「現場実習 報告会」 **自己存在感を育む指導のポイント**

Aさんの状況
【日常生活】
・自分の思いや考えを言葉で表現することが苦手である。
・失敗することへの不安が強い。活動に消極的な一面が見られる。
【授業実習】
・職場の方にほめられて自信がついた。
・同じ仕事に繰り返し取り組むことで、自分から行動することが増えた。
・前時では、普段の作業と実習での取組の様子を比較し、実習の成果をワークシートにまとめた。

4観点	【本時の目標】
知識・理解	現場実習を振り返り、学校生活と実習のつながりを理解する。
思考・判断・表現	普段の作業と現場実習を比較して働くことについて考える。
技能	現場実習先で身に付けた話をするときのマナー（言葉遣い、話し方、姿勢）を生かし発表することができる。
関心・意欲・態度	友達の発表を聞き、働くことへの関心をもち、意欲を高める

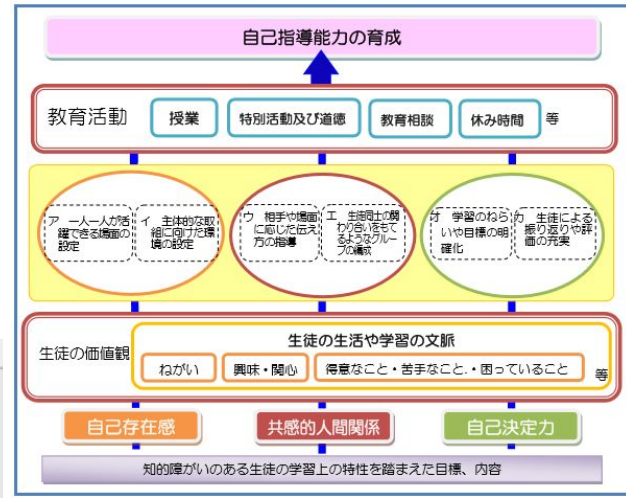
4観点	【Aさんの本時の目標】
技能	発表をする際の表情や姿勢に気を付けて発表ができる。
思考・判断・表現	現場実習を振り返り、自分に合った働き方を見つける。

【授業概要】
現場実習で学んだこと、感じたこと、実習で得られた経験をもとに今後の学校生活や進路選択、決定にどのように生かしていくか等の内容について、生徒個々に言語化し、振り返りを行う。

活動内容	指導の手立て	配慮事項
1 現場実習の振り返り	0-1の指導のポイントと手立てとの関連	自己存在感を育む指導の手立て
2 現場実習後の気持ちの変化、今後の学校生活での目標等を発表する。	自己存在感を育む手立て A一人一人が話せる場を確保できる場を設定 B主体的な取組に向けた環境の設定	2 発表前に、鏡を見て発表時の表情や姿勢を確認するとともに、事前に用意したワークシートを渡し、発表内容について確認を行う。
3 友達の発表を聞いての感想や質問を出し合う。		3 感想の発表に際し、友達の良い発表を長くポイントを取り、必要に応じてメモを取るよう支援を行う。 3 グループで話し合いをする際の質問の仕方や、相手に応じた伝え方のモデルを示す。

事例の成果

Aさんは、事後学習において、実習先や引率教員の評価から実習での取組について振り返り、良さや課題を中心に、気づいたことをまとめることができました。発表前には、ワークシートを活用して発表内容や、発表時の表情や姿勢を個別に確認することで、実習で意識していた話をする際の適切な声の大きさや姿勢に気を付けながら取り組む姿も見られました。発表の様子を写真で撮影し、振り返ることで自信をもち、他の学習場面でも意識ができるようになりました。また、報告会において、友達の良い発表から自分が興味を示した仕事についてメモを取り、その仕事について自分で調べようとする等、主体的に取り組む様子が見られるようになりました。



ありがとうございました。
特センのWEBページもぜひご覧ください。

北海道立特別支援教育センター

トップページ 相談 研修 資料・刊行物 道内の特別支援学校 入札情報 アクセス

お話し相談

電話相談はこちらから
011-612-5030

案内

所長あいさつ
運営協議会
施設設備
沿革
運営方針

お知らせ

道立知的障がい特別支援学校
職業学科設置校の(お)り

平成27年度研究紀要

自閉症の特性に応じた
自立活動の指導

SAAPeC

通常の学級における特別支援教育の
視点を生かした「実践事例集」

校内研修プログラム
・「活用事例集」

「特別支援学級を支えるために」
～特別支援学級に関するQ & A～

※ パナーをクリックすると、詳細を見ることができます。

研究紀要はこちら
からダウンロード
ができます。